

急病時の子どもの見方と受診の目安

子どもが急病になった時、保護者の不安は非常に大きいものです。救急担当の小児科医に「軽症で救急受診する必要のないのに」という態度をされた経験のある方がいるかもしれませんが、実を言うと、駆け出しのころの救急当番は小児科医も怖いのです。自分の子どもが具合の悪い時に保護者がうろたえてしまうのは当然です。

子育て中の保護者の方々に対するアンケート調査によると、子どもの急病時に「今から救急受診をするべきか、あるいは救急車を呼ぶべきか、それとももう少し様子を見てよいものか」を自分自身で判断することに大いに悩むという結果が出ています。

乳幼児は自分の体調や自覚症状を言葉で表現することができなかったり、訴えが不正確であったりします。

しかし、子どもはその時々々の体調が、全身の状態、顔つき、意識レベルなどにストレートに表れます。

適切な救急受診を判断する手段として、日本小児救急医学会が作成した「急病時の子どもの見方と受診の目安」が大いに役立ちます。

詳しくは同学会 HP 参照

https://www.convention-access.com/jsep/special_page/2020_manual.html

令和4年12月
大島 利夫